

【農業農村整備事業（県事業） 事後評価審議資料】（農地整備課）

○事後評価実施箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価箇所表	・・・p. 3
○説明資料（パワーポイント）	
8) 県営広域農道整備事業 「西南濃」	・・・p. 7



# 令和4年度 事後評価実施箇所一覧表 10月12日審議箇所

[農政部 農地整備課]

番号	担当職名	果事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 (百万円) 上段：当初 下段：最終	事業名	路線・地区・河川名 等	実施箇所 (市町村名)	対応方針(案)		
		補助・ 交付金	果単							今後の事後評価の 必要性	改善措置の必要性	新規事業へ適用すべき留意点
8	農地整備課	○		S54	R2	7,300 ----- 17,307	県管広域農道整備事業	西南濃	大垣市 海津市 関ヶ原町 養老町	現段階では必要なし	現段階では必要なし	事業着手時には、路肩草刈りなどの維持管理の体制整備について検討することにより留意する。



# 令和4年度事後評価箇所表

担当課〔農地整備課〕

番 号	8	事業名 (路線・河川名等)	県営広域農道整備事業 西南濃地区
事業実施箇所	不破郡関ヶ原町玉地内から 海津市海津町油島地内まで	全体事業費	(当初7,300) 17,307百万円
採択年度	昭和54年度	完了年度	令和2年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>本地区は、岐阜県の西南部に位置し、木曾川が形成する沖積平野の沃野にあり、関ヶ原町、大垣市（旧上石津町）、養老町、海津市の2市2町を区域とする広大な農業振興地域である。</p> <p>当該地域では、平野部においては、水稻及びトマト、きゅうりなどの施設野菜を中心とした高度の農業経営を展開し、海津市南濃町・大垣市上石津町、関ヶ原町の山麓地帯においては、みかんや柿、茶などの地形を利用した生産団地を形成し、関係市町・農協・農家が一体となった生産団地づくり・基幹作物の生産管理及び流通体系整備が進められてきた。</p> <p>本事業により、西南濃地域を南北に縦走する広域的な農道を整備し、当該地域における生産活動及び県内や中京、北陸市場への農産物輸送の合理化・効率化を図るとともに、農村地域の生活環境基盤の改善を図る。</p>		
事業概要	<p>受益面積 7,472ha</p> <p>事業延長 30,874m 、 幅員 7.5m (車道幅員 6.0m)</p>		
概要図	<p>概要図</p> <p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高速道路</li> <li>国道</li> <li>広域農道</li> <li>既設利用等区間</li> <li>受益範囲</li> <li>県境</li> <li>市町境</li> </ul>		

評価結果	
①住民参加・協働による効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の円滑な実施を図るため、昭和52年に「西南濃地区広域営農団地農道整備事業推進協議会」を設置し、地域として愛着のある農道となるよう、住民の意見を聞きながら建設推進に対する活動を実施。</li> <li>・地域住民も関わりながら施設管理者である市町により維持管理されている。</li> </ul>	
②事業効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●食料の安定供給の確保に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・営農に係る走行経費節減効果 農道を新設することにより農作物の生産に必要な資材や農産物の輸送、通作などの農業交通に係る人件費や車両経費などの走行経費が節減される</li> <li>・維持管理費節減効果 農道を新設することにより施設の維持管理（路肩草刈り）に要する経費が増える</li> </ul> </li> <li>●農村の振興に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般交通等走行経費節減効果 農道を新設することにより一般交通の走行に係る人件費や車両経費などの走行経費が節減される</li> </ul> </li> <li>○投資的効果率 妥当投資額/総事業費 = 1.1</li> <li>○農道整備により農産物流通体系等の合理化が図られ、地域農業が発展。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域農道整備により大型農業機械の導入が可能となり、地域におけるほ場整備事業が加速化。（大区画（50a以上）ほ場整備率 S53：0%→R2：42%）</li> <li>・農地利用集積率も飛躍的に増加。（H12：17%→R2：76%）</li> </ul> </li> </ul>	
③環境面への配慮	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で発生した根株を現場で粉砕し、法面緑化基盤材として利用。</li> <li>・橋梁工前後の護岸工には、水生生物が生息できる多自然型護岸ブロックを採用し、生態系の保全対策を実施。</li> </ul>	
④事業を巡る社会情勢の変化	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業期間内に「東海環状自動車道」の整備が推進。 令和2年度に養老IC近傍の本農道沿線に食品加工工場が操業開始。 西濃地域全体で加工用キャベツなどの作付けが加速し、本農道の需要が増加。</li> <li>・平成の大合併により、H17.3.28に「海津市」（旧海津町、平田町、南濃町）の誕生、H18.3.27に旧上石津町は大垣市と合併。</li> <li>・事業実施前、旧大垣市、海津郡、養老郡、不破郡、安八郡の13農協が統合を進め、H11.7.1に「JAにしみの」が誕生。（13農協→1農協）</li> </ul>	

⑤利用者・地域住民等への効果

【利用者、地域住民の意見】

○アンケートを実施し事業への意見の聞き取りを行った。

・アンケート調査の実施状況

配布枚数 755戸配布 → 631戸回収 (回収率 83.6%)

・利便性・満足度 (アンケート結果)

→農家の67%が農道の整備により「利便性が向上した」と回答している。

→農家の27%が農道の整備による「利便性の変化はなし」と回答しているが、これらの中には「整備前を知らない」人も多く、これらの人からは「生活に欠かせない道路」との意見もあり、農道の整備に関する満足度は高いことを確認。

・その他の意見

農道が整備されたことにより「農業資材の買い出しの際に走行距離や時間が短縮された」「見通しが良く安全に走行できる」「主要道路通行止め時の迂回路として役立っている」などの意見があった。

一方で、「路肩の雑木・雑草が繁茂している」「車の速度が速い」などの意見もあった。

⑥対応方針 (案)

【今後の事業評価の必要性】

- ・農業生産及び流通の合理化が図られており地域の農業振興が図られている。
- ・また、農業用のみならず、地域の生活道路としても利用されており、地域住民へのアンケートでも満足度が高いことから、今の段階では必要無し。

【改善措置の必要性】

- ・今の段階では必要無し。

【新規事業へ適用すべき留意点】

- ・事業着手時には、路肩草刈りなどの維持管理の体制整備について検討することに留意する。





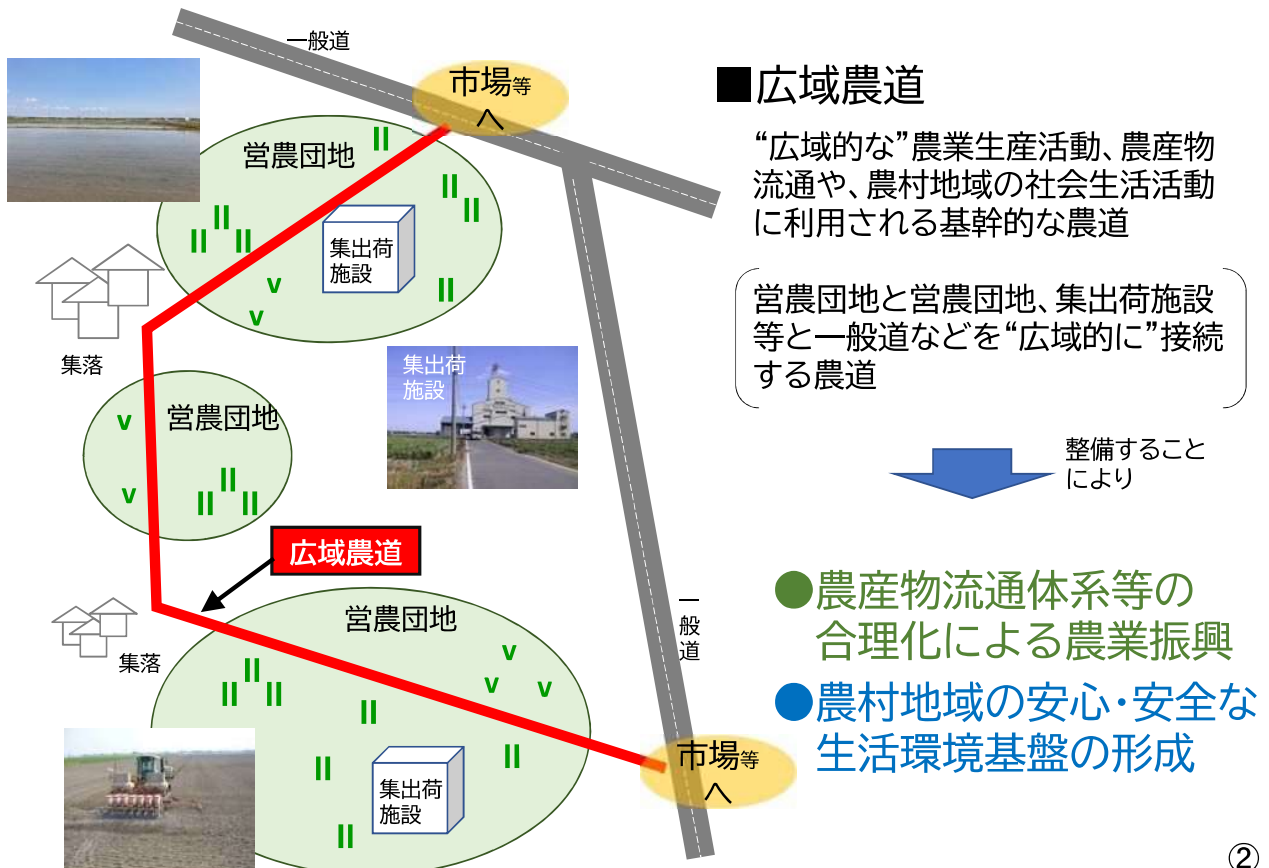
# 事後評価 県営広域農道整備事業 西南濃地区



農政部 農地整備課

①

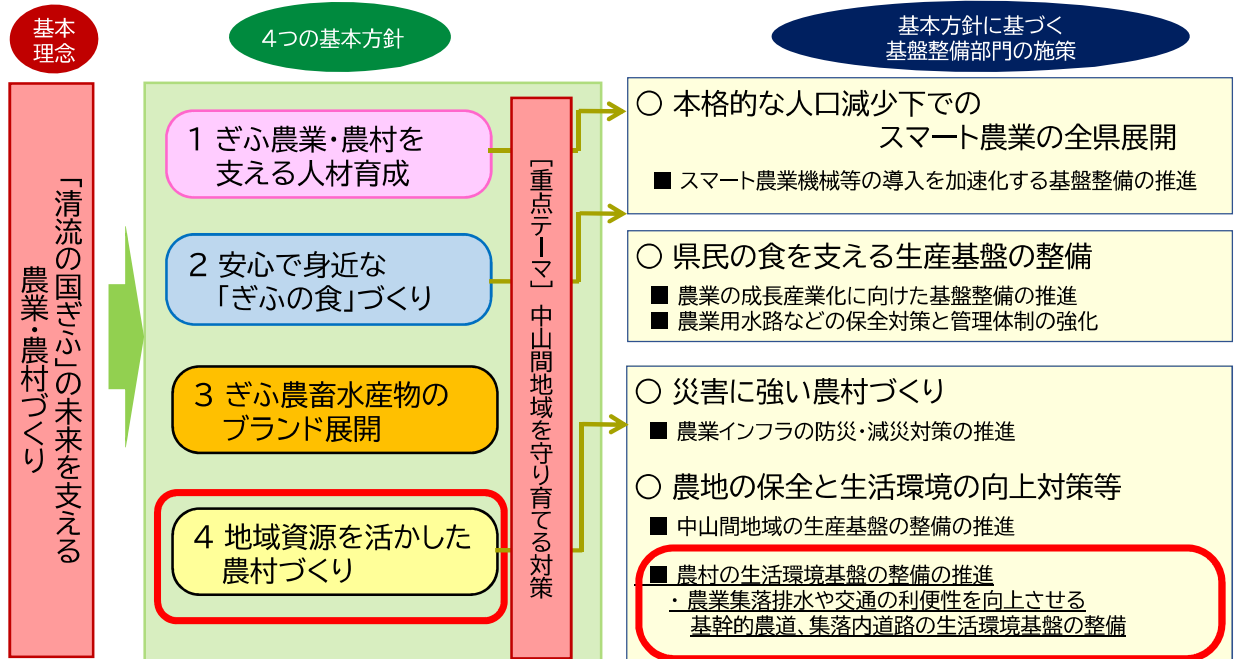
## 事業概要①（事業の必要性）



②

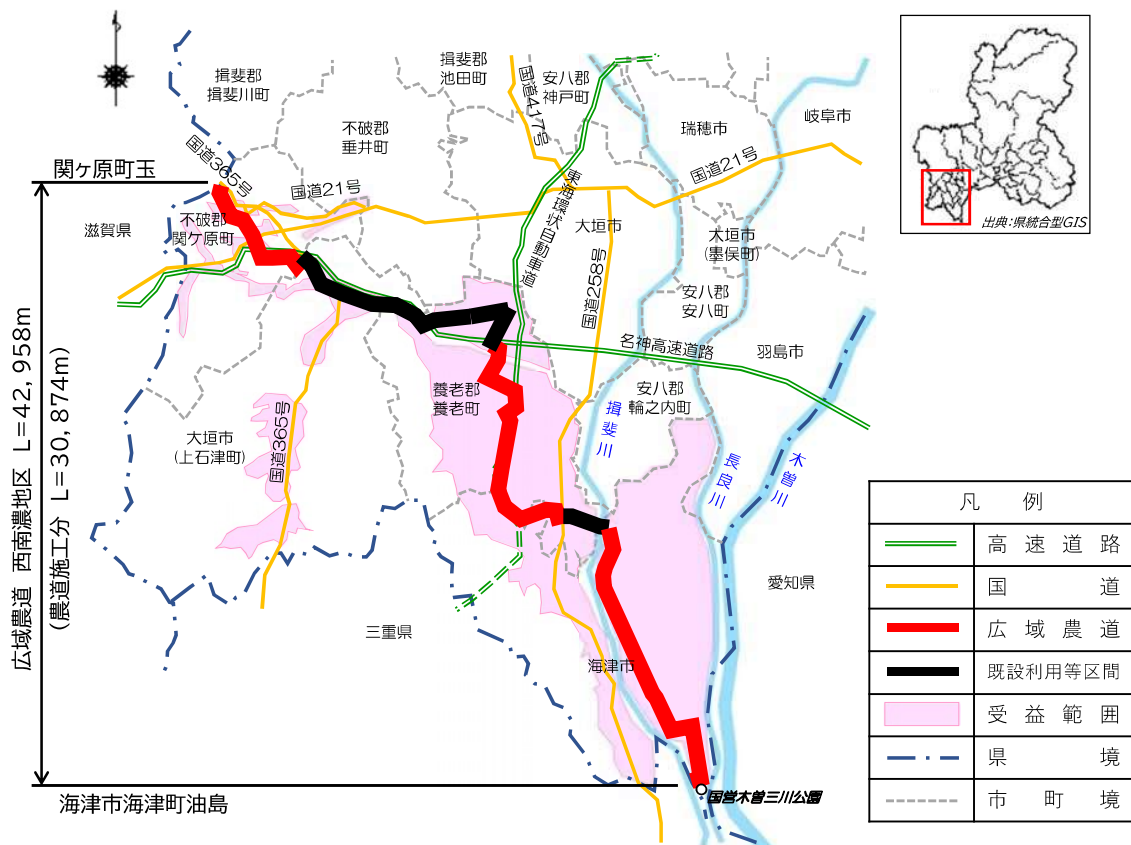
## 事業概要②（県政策における位置付け）

新たな「ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）」の基本方針【地域資源を活かした農村づくり】において、〈農村の生活環境基盤の整備の推進〉を達成するための重要な事業



③

## 事業概要③（事業位置図）

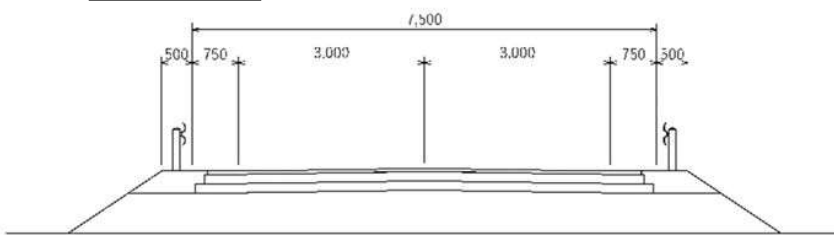


④

## 事業概要④（事業費等）

事業費：17,307百万円（国:50%、県:42.5%、市町:7.5%）  
 受益面積：7,472ha  
 関係市町：大垣市、海津市、養老町、関ヶ原町  
 事業期間：昭和54年度～令和2年度  
 全体延長：L=30,874m  
 幅員：W=7.5m(車道幅員6.0m)

標準断面図



道路規格	第3種第3級
設計速度	V=40km/h
幅員構成	車道幅員 W=3.00m
	路肩幅員 W=0.75m
	全体幅員 W=7.50m
計画大型交通量	Ⅲ交通

⑤

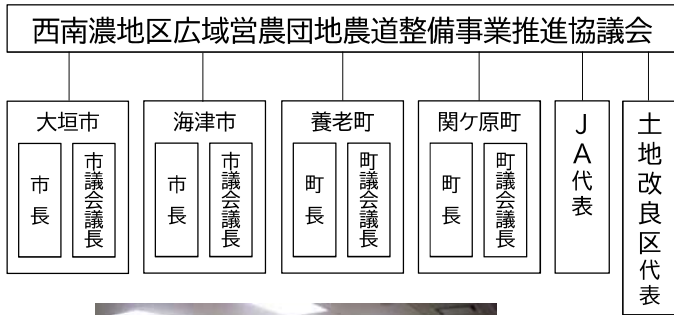
## 事業概要⑤（整備状況）



⑥

# 住民参加・協働による効果

## ◆推進体制



## ◆施設の維持管理状況

沿道の排水路清掃



水仙の植栽



- ・計画設計段階から、管理予定者及び住民の意見を計画に反映
- ・地元住民も積極的に維持管理に取り組んでいる。

⑦

# 事業の効果①

## ■農産物輸送における時間短縮 <例:水稲、農地～集出荷場 海津市内)>

<整備前>



<<整備後>>



<整備前>

- ・ 回当たり輸送時間: 20分 [脇野地域 ~集出荷場 8km]
- ・ 輸送回数 : 22回 [軽トラック]

合計 輸送時間 約7時間

6時間短縮

<<整備後>>

- ・ 回当たり輸送時間: 12分 [脇野地域 ~集出荷場 8km]
- ・ 輸送回数 : 4回 [2tトラック]

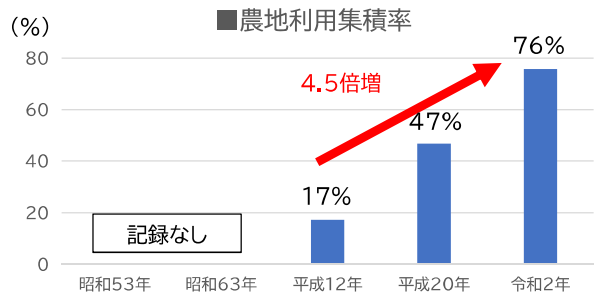
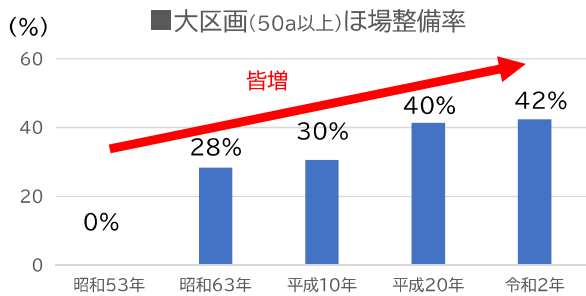
合計 輸送時間 約1時間

⑧

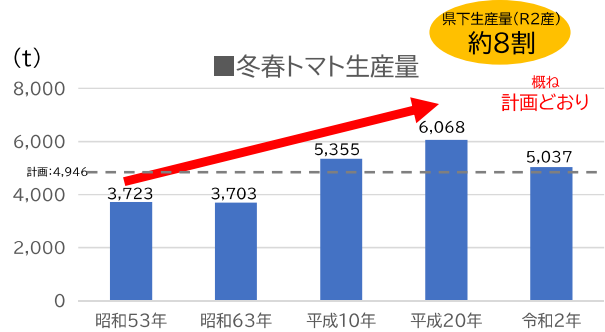
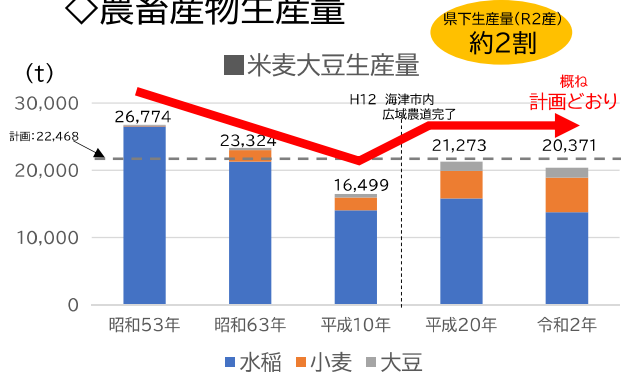
## 事業の効果②

### ■地域農業の発展

#### ◇農業構造



#### ◇農畜産物生産量

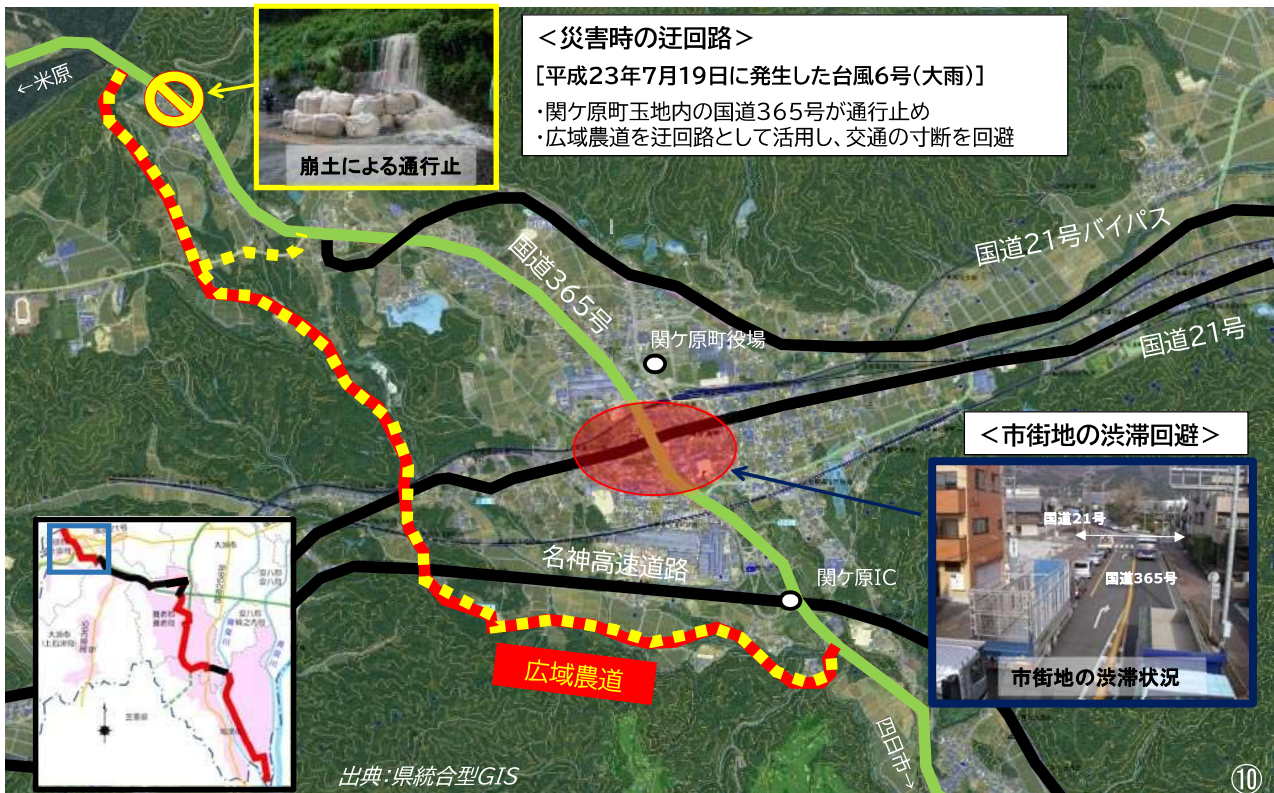


⑨

## 事業の効果③

### ■主要幹線道路のバイパス機能

■ 第1次緊急輸送道路  
■ 第2次緊急輸送道路



⑩

## 事業の効果④

### 費用対効果分析

#### ■事業の効果

食料の安定供給の確保に関する効果 効果全体の90%  
農村の振興に関する効果 効果全体の10%

#### ■投資的效果率

$$\frac{\text{妥当投資額}}{\text{総事業費}} = 1.1$$

事業計画時 1.1

⑪

## 環境への配慮

- 現場で発生した根株を現場で粉砕し、法面緑化基盤材として利用
- 橋梁工前後の護岸工には、水生生物が生息できる多自然型護岸ブロックを採用【生態系の保全】

#### ■景観形成



#### ■生態系への配慮



⑫

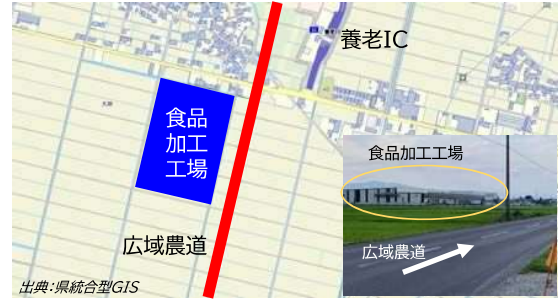
# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

## ■東海環状自動車道の整備

- ◇大野神戸IC～養老IC間が令和元年12月までに開通
- ◇令和8年度全線開通見通し



出典：岐阜国道事務所HP  
<https://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/works/tokaikanio01.html>



- 令和2年度 養老IC近傍の本農道沿線に食品加工工場が操業開始
- 地域では加工用キャベツなど高収益作物への取り組みが加速し、本農道の需要が増加

⑬

## 利用者・地域住民等への効果①

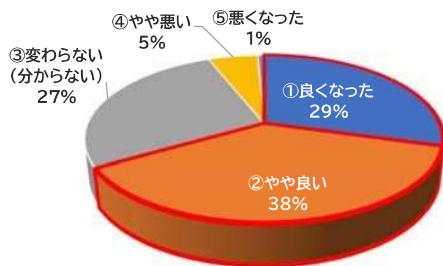
アンケート結果: 755戸配布、631戸回収 回収率83.6%

調査方法

【対象】受益地内の農業者及び地域住民 【調査期間】令和4年6月27日～令和4年7月22日

### 農業への効果

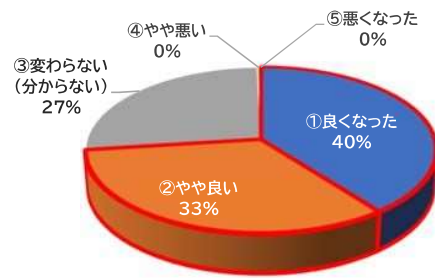
広域農道ができて、農業上の利便性に変化はありましたか



67%の農家が満足と回答

### 日常生活への効果

広域農道ができて、通勤や買い物などにおいて、利便性に変化はありましたか



73%の利用者が満足と回答

・・・「③変わらない」と答えた人への聞き取り調査結果

- 営農を始めたころから本農道を使用しているため利便性の“変化”を評価できない。(海津市 H12開通)
- 地域の生活に欠かせない道路であることは実感している。

⑭

## 利用者・地域住民等への効果②



- ・ 農業資材の運搬の際、走行距離や時間が短縮された。
- ・ 直線が多く、道路幅も十分にあり安全に走行できる。
- ・ カントリーエレベーターなどJA施設まで距離が短くなった。

- ・ 生活道路として便利になった。
- ・ 見通しがよく安全に走ることができる。
- ・ 冬期の国道通行止めの際には非常に助かっている。



- ・ 道路脇の雑木、雑草が多く通行に支障となっている箇所がある。
- ・ 利用者も多いがゴミのポイ捨て、不法投棄が多い。
- ・ 速度超過の車も多く危険に感じる。

⑮

## 対応方針（案）

### ■今後の事後評価の必要性

- 農業生産及び流通の合理化が図られており地域の農業振興が図られている。
- また、農業用のみならず、地域の生活道路としても利用されており、地域住民へのアンケートでも満足度が高いことから、今の段階では必要無し。

### ■改善措置の必要性

- 今の段階では必要無し。

### ■新規事業へ適用すべき留意点

- 事業着手時には、路肩草刈りなどの維持管理の体制整備について検討しておくことが必要。

⑯